Poster(multiple job category) | 家族支援・ケア実践

Poster (multiple job category) 2 (II-TRP2)

Chair: Atsuko Morisada (Kurashiki Central Hospital)

Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-03]先天性心疾患児をもつ家族へのサポートグループの導入

 $^{\circ}$ 小川 理絵子 1 , 小田巻 由夏 1 , 嶋田 一樹 2 , 水島 みゆき 2 , 倉橋 郁乃 1 , 大石 知亜美 1 , 新井 希 1 , 中村 泉 1 (1.静岡県立こども病院 循環器病棟, 2.静岡県立こども病院 心理療法室)

Keywords:家族のピアサポート, 心理士の介入, 家族ダイナミックス

【背景】先天性心疾患児をもつ家族は、育児や療育に対する不安が大きく、退院後の生活をイメージすることが 難しい。【目的】家族同士が感情を吐露することで、先天性心疾患児を持つ家族の自責の念や、孤独感を軽減 し、退院について肯定的に考えるきっかけを作る。【研究方法】対象:A病院入院中の先天性心疾患児の両親、主 に初回入院の新生児の家族。方法1.看護師から疾患に関連する制度など10分間の講義後、心理士と看護師を含め た10人以内のサポートグループを構成し90分の語りを実施する。2.語りの後、アンケートや面談から、家族の想 いを抽出し、サポートグループの語りがもたらす影響を質的に検討する。【倫理的配慮】 A病院の倫理審査の承認 を得ている。【結果】語りの内容は"自己紹介""児の診断を受けた時の気持ち""今の想い""今悩んでいることや感 じていること"などの項目を、その時のグループの会話の流れを考慮して展開した。実施後、回答を得た全員が参 加してよかったと答えた。理由は"悩んでいるのは自分達だけではないと気付いたこと""同じように大変な思いを しても前向きにとらえようとしている家族がいることを知ったこと""手術を経験した家族に勇気づけられたこ と"などがある。また"もっと早い段階で会に参加できればよかった""次も機会があれば参加したい"との意見が あった。【考察】サポートグループは、家族にとって安全な場として認識され、感情を吐露することで安寧をも たらし、不安を軽減させる。グループダイナミクスによりこれからの療育に対するイメージが拡大される。【結 論】サポートグループでの語りは、家族が不安を吐露し、悩みを共有し整理することで、自責の念や孤独感を軽 減させるのに有効である。サポートグループでの語りは退院を肯定的に考えるきっかけには直結しないが、退院 を肯定的に考えるための前段階に、有効な介入の一つである。